

町中だより

西原のことば～その③～

暮らしなかの動植物

梅雨に入り、ぐずついた天気が続いている。沖縄では本土より約一ヶ月

早く梅雨がやってきます。この時期を二十四節氣にあてはめると小満と芒種にあたることから、沖縄では梅雨の季節をスマンボースー(小満芒種)と呼んでいます。水資源の乏しい沖縄にとって、この時期の雨は恵みの雨ですが、つい

室内にこもりがちになってしまいます。

しかし、一步外へ出るとさまざまな動植物に出会うことができます。

夜、しっぽの先から青白い光を放つホタル(ジーナー、ジンジンなど)は、ちょうど今が見ごろです。かつては西原でも夜になるとたくさんのホタルが飛び交い、子どもたちが夢中になつてホタル捕りをしました。そのとき、

ウンジュはヤンバルに多く自生している

高木です。この時期、高速道路などから見るヤンバルの山はウンジュの花で白く彩られています。その幹は堅く、ヲウ

一ビキ(梁)やキチ(垂木)などの建築

資材として重宝されていました。町内では千原周辺に見られますが、戦前はヤンバル船で運ばれてきた木材を購入していました。ヤンバル船は戦後しばらくの間まで伊保の浜に入ってきたよう

で、そこから小那覇にあつた材木店へ運び出していたと言います。

一方、スマンボースーのころに咲く花として有名なのはウンジュ(イジュ)です。

道端に目を向けると、ユウナ(オオハマボウ)の花が美しく咲き乱れています。

ユウナの用途は多種多様で、葉をお皿

として使用したり、トイレットペーパーの

雨の日によく見かける動物と言えば

カタツムリがあげられます。カタツムリには色々な種類がありますが、西原ではそれらをまとめてチンナン、チンナングワーと言います。畠や家のまわりで目に見えるオキナワスカラマイマイ(チンナン)、ハルチナンなど)はアヒラー(アヒル)のエサとなつたほか、サギグスイ(下げ葉)

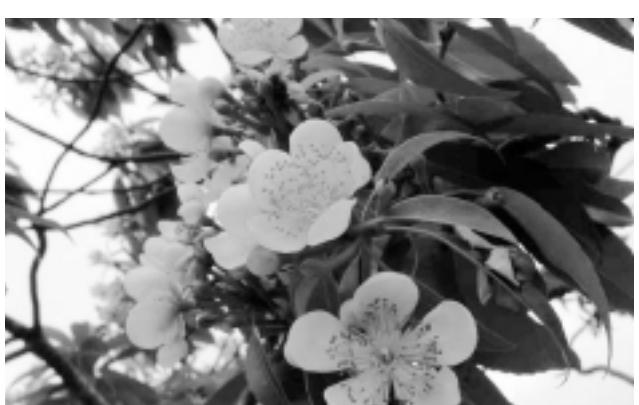
として用いられていました。

例年、沖縄の梅雨が明けるのは夏至にあたる六月二十一日ごろ。スマンボースーが過ぎると、夏の到来を告げる力

チーベーが吹き始めます。

夏はもう、すぐそこまで来ています。

代わりとして使用していました。また、木の皮から纖維をとつて繩を作ったり、枝からおもちゃの刀を作つてチャンバラごっこをして遊んだりしたそうです。呉屋や掛保久では特にユウナの花をパラソルマーと呼んでいました。花の形がパラソルマーに似ているということなのでしょうか?



▲ウンジュの花

二十四節氣

一年間を二十四の期間に分け、それぞれの期間の季節的な特徴を表す名前をつけたもの。

【カーチーベー】

梅雨明けごろから六月末まで吹き続く南～南西の安定したやや強い季節風。

【参考文献】

西原町史編纂委員会『西原町史』第四卷
資料編三 西原の民俗／西原町教育委員会『西原町の自然～動物・人と自然の関わり』

沖縄タイムス社『沖縄大百科事典』

高良初喜・佐々木正和『沖縄の気象と天気』

